

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年6月27日

**【評価実施概要】**

事業所番号	2870101041		
法人名	医療法人甲有会		
事業所名	グループホームアネシス魚崎		
所在地	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町5-13-6 (電話) 078-436-1236		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月1日	評価確定日	平成19年8月2日

【情報提供票より】 ( H19年5月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	12月	1日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	29人	常勤23人,	非常勤6人,	常勤換算26, 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000	円	その他の経費(月額)	25,900	円	
敷金	有( )	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )	( 450,000 )	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	330	円	昼食	400	円
	夕食		円	おやつ	100	円
	または1日当たり		1,330	円		

(4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	25名	男性	4名	女性	21名	
要介護1	9	要介護2	10			
要介護3	2	要介護4	3			
要介護5	0	要支援2	1			
年齢	平均	0歳	最低	80歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲有クリニック・新田歯科・山口内科・東眼科・神心療内科
---------	-----------------------------

**【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】**

利便性の良い地域に位置するホームではあるが、近くには緩やかに流れる住吉川や公園があり、川の流れに安らぎを感じ、緑に癒される環境も整っている。ホームは地域自治会に加入しており、近隣の公園の清掃活動に入居者とともに参加し、自治会との協力体制が整いつつある。ホームでの生活の流れは職員の都合を優先するのではなく、入居者の今までの生活歴や習慣を尊重し、個々のペースを大切にしながら柔軟な支援を行っている。

**【重点項目への取組状況】**

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価について会議等での報告はあったが、評価結果を踏まえた改善への取り組みに関しては管理者の交代があり十分な検討にまで至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は職員一人ひとりが、評価項目に沿って日々のケアの気付きや振り返りができる機会として捉え、各ユニットリーダーと管理者が中心になって取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの基本理念や方針について・サービス提供に関する基本的な考え方・年間行事予定などについての報告や質疑応答が中心となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し、運営推進会議・家族会・意見箱の設置等で家族からの要望等を聞くよう取り組み、出された苦情や要望に対して会議等で検討するよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	毎日の散歩・買物は、継続的な実施を習慣化させようとしている。地域の自治会に所属し、毎週の公園の清掃に入居者とともに加わり、今後は「子守会」への参加で子供達との交流も増やしていく予定である。民生委員の情報提供で餅つき大会などの行事へ参加し、ボランティアの導入による音楽療法・ドックセラピーの実施がある。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者の方の受容と傾聴を大切にする・尊敬ある暮らしの中で自己決定を尊重する・地域とのふれあいを大切にする、の考えを理念とし、地域密着型サービスとしての役割を果たしていけるよう努めている。管理者は法人内の異動で1ヶ月ほど前に着任した状況ではあるが、地域の中での暮らしを支えていくケアを目指し、職員とともに具体的にな取り組みが見られる。</p>		
2	2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員は日々のケアの中で自然な形で理念に沿ったケアが実現できるよう取り組んでいるが、日常的に会議で理念について確認しあう等の取り組みは継続されていない。</p>	○	<p>理念が確実に職員全体に浸透していく為に、継続的に全体会議等で再確認し、共有化を図るような働きかけを期待する。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎日の散歩・買物は、継続的な実施を習慣化させようと取り組んでいる。地域の自治会に所属し、毎週の公園の清掃に入居者とともに加わっている。民生委員の情報提供で餅つき大会など地域行事への参加があり、ボランティアの導入で音楽療法・ドッグセラピーを実施している。自治会の協力体制が整ってきており、「子守会」に参加し、子供達との交流の機会も増やしていきたいと考えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について会議等での報告は行ったが、評価結果を踏まえた改善への取り組みに向けて十分な検討がなされていない。今回の自己評価は各ユニットリーダーが取り組み、管理者との話し合いのもと、評価結果の作成を行った。	○	自己評価は、評価項目に沿って日々のケアの気付きや振り返りができる機会として捉え、職員全体で取り組む事が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター・自治会長・家族・管理者・介護主任の参加により、現在までに3回開催している。ホームの基本理念や方針について・サービス提供に関する基本的な考え方・年間行事予定などについての報告や質疑応答が中心となっている。会議での検討内容はまだサービスの質の向上に反映するまでには至っていない。	○	今後は会議の討議内容について、サービスの質の向上に反映していく為に、職員間で共有し、検討していく事が望まれる。外部評価や自己評価の結果を運営推進会議で報告し、改善に向けての取り組み状況を伝え、助言をもらう等の働きかけが求められる。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議についての関わり以外は市や区との交流は少ない。	○	介護保険の保険者である市との関わりを深める為に、ホームの実情や活動状況を伝え、必要時相談に乗ってもらう等の働きかけを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、毎月1回書面で家族に報告している。入居者の近況等については、家族の来訪時や電話での報告を行っているが、定期的に文書等で報告することは実施していない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が出席し意見交換の場となっている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し家族等に説明している。家族会の開催や意見箱の設置で家族からの要望等を聞く体制があり、出された苦情や要望に対して会議等で検討するよう努めているが、ケアに活かしていくまでに至っていない。	○	日常の家族とのコミュニケーションの中から、職員は意見や不満・苦情を敏感に感じ取り、職員全体で改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動に関しては、随時家族に報告しているが、職員の個々の移動については入居者・家族への対応が徹底していない。職員の離職を極力少なくする為に、福利厚生・給料面への配慮について法人へ要望として伝えていく意向である。	○	職員の異動に関しては、入居者や家族の信頼関係を維持し不安やダメージを防ぐ為に、その都度の説明や職員の引継ぎの工夫等、柔軟な対応が望まれる。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はマニュアルを作成し研修を実施している。法人内研修・外部研修の情報提供を行い、随時参加への促しを行っているが研修計画の策定には至っていない。	○	研修の案内や研修参加への促しを継続するとともに、職員の力量に応じた研修計画を策定し研修の機会が確保されるよう、組織的な支援体制を整える事が望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが中心となり地域のグループホームとの連携を図る取り組みがある。東灘区のグループホーム連絡会の設置予定があり、参加の意向がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者・家族がホームを見学できる体制があり、利用者にホームの雰囲気や生活の流れを伝え、不安の軽減に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の思いを受けとめ確実な支援ができるよう努めており、入居者も職員への感謝やいたわりの気持ちを言葉や態度で伝えているが協同で過す環境に至っていない。	○	今後も職員は入居者の関心のあることや得意な事を把握し、日常において力を発揮できる場面を設定し、職員が教えてもらったり支えてもらったりする関係作りが期待される。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、入居時や日々の生活の中で本人や家族の希望を把握するよう努めている。日常のケアにおいて、入居者一人ひとりに対して職員の担当制を導入し、より細やかな把握ができるようになっている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の本人・家族との面談で生活情報シートを活用し情報収集の後、介護計画を作成している。アセスメントが不十分な時期があったが、現在は職員の担当制を導入、センター方式の活用でアセスメントを実施し、職員間で話し合わせ計画立案できるように取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化や家族の要望に応じて介護計画を見直すとともに、定期的に6ヶ月に1回の見直しを実施している。管理者は、入居者のADLや症状の改善のみでなく、「ホームでの生活の質」という視点を大切に介護計画を作成していきたいとの思いがある。	○	入居者の状態変化やニーズに沿ったケアができていないか月に1回程度の計画の見直しが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護のサービスを活用し、入居者の健康管理が出来るように配慮されている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による2週間に1回の往診・歯科は週1回・眼科は月1回・心療内科は月1回の往診を受けている。馴染みのかかりつけ医を希望する入居者は、家族の協力の下に受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はホームの方針としてターミナルケアの受け入れ体制はないが、入居者の急変時は担当医や訪問看護ステーションの看護師に相談できる取り組みがある。	○	重度化に対応していく意向がある為、事業所・家族・医師が共通の認識を持てるよう話し合い、事業所としての対応指針を定める事が望ましい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の支援や食事介助等において入居者のプライドを尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応が行われている。	○	全ての職員が個人情報保護法の理解を含めたプライバシー保護の徹底を図る為の学習会等の取り組みを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活の流れは職員の都合を優先するのではなく、入居者の今までの生活歴や習慣を尊重し、個々のペースを大切に支援を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食・夕食は委託業者からの配食サービスを利用しているが、土・日の食事に関しては、買物・調理・後片付け等食事作りの一連の流れを入居者と共に行っている。配食サービス利用時も盛り付け・配膳・後片付けは入居者の意思を大切に、職員とともに行っている。法人の方針として職員は弁当等持参し一緒に食べるようになっていくが、同じ食事を食べる機会も適宜作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	集中する時間帯もあるが、入浴日時は入居者の希望に沿うよう努めている。希望により時間延長しながら対応できる体制もある。一人ひとり個別入浴でプライバシーに配慮した見守りや介助が行われている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量を把握し、入居者の意向に沿って配膳・後片付け・洗濯物たたみ・自治会の清掃活動等ができるよう支援している。ボランティアの協力により音楽療法・ドッグセラピーを取り入れ、ちぎり絵制作・生け花・日本舞踊等楽しみの場を提供し、入居者の気持ちに沿った参加を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買物は入居者の希望に沿って、毎日実施する事を習慣化させようと努めている。入居者の身体状況に応じて車椅子対応による外出支援を行っている。地域自治会に所属し、地域の祭りや行事への参加・清掃活動・小学校や中学校との交流の為に地域へ出かける機会がある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は開錠しているが、各フロア毎のエレベーターは安全面に配慮し施錠している。職員・家族と話しあう機会を持ち、開錠に向けて検討したいと考えている。居室のベランダに通じる掃き出しの窓は開錠し、ベランダに出て過ごせるよう配慮している。	○	施錠によるデメリットを認識し、入居者の自由な暮らしを支える為の支援を検討していくことが望まれる。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携により、年2回の避難訓練を実施している。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	日々の食事摂取量や水分摂取量を介護記録に記入し、入居者の健康状態の確認に活かしている。入居者の状況に合わせ、誤嚥等を防ぐ為に調理や介助の工夫を行っている。今後は業者と定期的な話し合いを持ち、高齢者に配慮したメニューの検討や要望を伝えていく予定である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は暖色系を中心にした配色で、穏かで落ち着いて過ごせる空間となっている。リビングの家具の位置は入居者の自立支援に繋がるよう工夫した配置となっている。壁面には入居者の作品である季節ごとのちぎり絵のカレンダーが掲示され、季節感を感じさせている。キッチン是对面式になっており、事務所はカウンターが設置され、入居者を見守りながら記録ができるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者 や家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのものを活かして、居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室内の持ち込みは自由でベット・タンス・仏壇・テレビ等思い思いに入居者の使い慣れたものを持ち込み、安心して過せる生活空間が出来ている。カーテンの色も入居者の好みに配慮して選んでいる。畳を希望する場合の対応も可能である。		

※  は、重点項目。